

地下水学会誌に投稿された原稿は、掲載するにふさわしいものでなければならないので、本委員会では下記によって原稿の査読を慎重に行ない、学会の機関誌としてより充実した内容の編集を期するものである。

### 1. 査読の姿勢

査読は、投稿された原稿が本機関誌に掲載されるに適切なものか否か、また原稿の中に明らかな誤りがないか、読者に読みやすいものであるかないか、などを判定するために行なうもので、内容を批評したり、討論したりするものではない。

査読者は、当該原稿が公表前の研究成果あるいは報告等であることに十分留意し、原稿の内容について秘密を守り、投稿者の権利を確実に保護しなければならない。また、査読終了後は、当該原稿を削除しなければならない。

### 2. 投稿原稿の種類

本誌において査読が行われる投稿原稿は、「論説・論文・短報・技術報告・討議・資料」であり、その区分としては以下のようなものである。

「論説」は、大局的視野から地下水学の学問的・技術的・社会的動向につき論じ、将来の方針を示唆しようとするものである。

「論文」は、地下水学に関するオリジナルなもので、他の学会誌・論文集・単行本・その他で掲載されたことのないものである。

「短報」は、速報として価値のある内容を含む未発表の短い論文に相当するものである。

「技術報告」は、地下水学における現場での計測、各種問題の考察、実験や解析に関する技術的考察である。

「討議」は、本学会誌に掲載された「論文・短報・技術報告」等に対して討議するものである。

「資料」は、地下水学に関する最新の情報、データなどを含むものである。

### 3. 査読基準

査読にあたり、投稿原稿がその分野においていかなる位置づけにあるか、新しい観点からなされた内容を含んでいるか、研究成果の貢献度が大きいかなど、等の点について以下の項目にてらし客観的に評価する。

- 1) 独創性：内容が公知、既発表または既知のことから容易には導き得るものではないこと。もしくは地域研究にあつては、当該地域の特徴的な諸現象の探究に資する新規性を有していること。
- 2) 有用性：内容が学術または実用上何らかの意味で価値があること。
- 3) 妥当性：内容が信頼できるものであって十分な妥当性を持っていること。従来からの技術や研究成果との比較が公正になされていること。
- 4) 論理性：内容に一貫した論理性があり、説明に飛躍がないこと。
- 5) 簡潔性：内容が簡潔・平易で、総花的ではなく重点が強調されていること。

### 4. 修正意見

原稿の内容についての責任は、すべて著者がもつものであることを念頭に置き、修正意見を述べるものとする。特に以下の点に留意いただきたい。

- ・ 新たな実験や計算を追加させることは極力さける。
- ・ 査読者の主観的な意見や好みを主張して、原稿の構成を大幅に変更することを要求したり、投稿者が査読者と見解を異にする点について修正を要求したりすることは避ける。後者の場合には掲載後に「討議」を行っていただきたい。
- ・ 査読者は、投稿者に対し研究を指導する立場にはないことに留意すべきである。ただし、明らかに査読者の意見・指摘によって原稿の内容が向上すると思われる場合には、その点を述べてもよい。
- ・ 修正意見は「採用条件」と「改善意見」とに区別し、具体的に記入する。ここに、「採用条件」とは掲載可と判定するための必須の修正事項であり、「改善意見」とは、論文内容向上のために修正が望ましいと思われる事項である。
- ・ 修正意見の提出は原則として初回のみとし、再査読時には採否を決める。

以上